

会 議 録

1 会議名	平成 24 年度 第 1 回福野地域審議会
2 議題	(1) 南砺市安全・安心な道路整備 5 箇年計画について (2) 南砺市山間過疎地域振興条例について (3) 南砺市まちづくり基本条例の運用について (4) 市民要望システムの運用について (5) 合併特例債期間延長に伴う手続きについて その他
3 開催日時	平成 25 年 1 月 23 日 (水) 12:58~15:04
4 開催場所	南砺市役所 福野庁舎 会議室 102
5 会議出席者	〔 委員：出席 12 名／全 13 名 〕 50 音順 大塚千代、片山和夫、河合英子、(会長・議長) 河合 茂、窪 隆之 田中芳弘、長谷川正助、花島榮一、廣瀬正也、福富京子、古瀬正嗣 堀元栄信 ※欠席：(副会長) 中嶋與四雄 〔 市：出席 11 名 〕 市長 田中幹夫、市長政策室長 高山博文、建設部次長・土木課長 浦田昭一 (以上説明・答弁者)、福野行政センター長 安川 正 (司会) 市長政策室次長・市民協働課長 長澤孝司、企画情報課長 斉藤宗人 企画情報課秘書係長 川森純一、企画情報課企画調整係長 柴 雅人 市民協働課市民協働係長 上口長博、 福野行政センター次長 城寶哲夫、福野行政センター副主幹 林 浩明
6 傍聴者	2 名
7 会議記録 (1) 開会	安川センター長が開会を告げ、本日の会議に中嶋副会長が欠席であることを報告。
(2) あいさつ	河合会長の開会あいさつに続いて、田中市長のあいさつ
(3) 付議事項	以後、河合会長が議長となり会議を進行 (1) 南砺市安全・安心な道路整備 5 箇年計画について 浦田次長が資料に基づいて整備計画を説明 河合会長 ただいまの説明にご質問、ご意見等は。 A 委員 消防署所再編に伴う道路整備として都市計画道路百町 二日町線、特に JR との立体交差部分を早く整備してほ

	<p>しい。この区間は県代行工事と聞いているが。</p> <p>浦田次長 JR の跨線橋となる区間については、毎年県へ重点要望として上げている。</p> <p>その東側から福野高校までの区間は、この5カ年計画の評価対象である。</p>
B 委員	<p>県は、今のところ立体交差区間を代行施工する気ないのでは。県施工がどうしても無理となった場合には、市の5カ年計画に取り込むのか？</p>
田中市長	<p>市の道路予算は限られており、緊急車両の通行、通学路の安全確保、スマート IC 関連など、重要なものにメリハリをつけ整備を進めていく。この5カ年計画は道路整備にかける南砺市の意思表示であり、県に対して今後も強く要望していきたい。</p>
B 委員	<p>2月に計画案をとりまとめ、その後市民に意見を求めるとの説明であったが、その時点で計画の変更はできるのか。</p>
田中市長	<p>もちろん出来るが予算上の制約もある。まず市自治振興会連合会に諮りたい。</p>
浦田次長	<p>市として公平な目線で計画案を作成し、十分煮詰めた上で先ず自治振興会連合会に説明をしたい。また市財政課とも協議し、整備計画の予算をしっかりと確保したい。</p>
C 委員	<p>都市計画道路百町二日町線は、旧福野町の時代に県と協議し、町の責任とした区間は施工した。次は県の番というところで合併。南砺市になったら、県は（町道ならともかく）市道は市で整備してくれというふうに変わった。</p>
D 委員	<p>高架区間は市の5カ年計画の評価には入らない、県ではやる気が無い、これではまた何も進展しないのではないか。まず、県道のルートを変更して（主要地方道池尻福野線から高架で JR を越え国道 471 へ）県の仕事であることを明確化する事が先決ではないかと思う。</p>
E 委員	<p>北部地区は企業進出等で交通量が増加しているが、具体的なデータは把握できているか。また、宅地造成等により住宅戸数が一気に 20~30 軒も増えると交通アクセスはどのように変わるのか、民間任せにしておかず、行政でも事前にきちんと把握しておくべきである。</p>
浦田次長	<p>公共性が評価対象の路線については、事前に交通量調査を行っている。</p>
B 委員	<p>計画案を出す時には、路線毎に評価基準を分かりやすく</p>

	<p>示してほしい。</p> <p>浦田次長 路線ごとに評価のポイントを示す予定である。</p> <p>F 委員 南部、西部地区から福野中心地への進入ルートが不便であるが、長らく改善されていない。</p> <p>浦田次長 今回の5カ年計画の評価路線に加え評価をしている。</p> <p>G 委員 「最優先」という言葉がたくさん出てくるが、133の評価対象路のうち市としてはどれを「最優先」とするのかもっと絞り込んで欲しい。</p> <p>浦田次長 評価ポイントで優先順位をつけ、予算の枠内で整備していくということになる。</p> <p>D 委員 「安全・安心な道路整備」より「緊急道路整備」のほうが良くないか。</p> <p>田中市長 今後5年間に新規着手する路線について「安全・安心」の観点から整備計画をつくる方向性を示すものということでご理解願いたい。</p>
<p>(4) 承認事項</p>	<p>(5) 合併特例債期間延長に伴う手続きについて</p> <p>高山室長 本件は、地域審議会の承認事項であるので最初に説明する。合併特例債を起こせる期間が5年間延長された。この起債は「新市合併まちづくり計画」に記載の事業について起こせるので、計画の終了期間をH26年度からH31年度に変更する。もう1点は起債枠を概ね8割までとしていたが、上限(320億円)まで使えるようにする。この2点について承認を願いたい。</p> <p>C 委員 この起債は今まで何に使い、今後はどう使うのか。</p> <p>高山室長 主なものとして、今まで保育園統合、小中学校の統合・耐震化、やすらぎ荘建設などに、今後は消防署所の再編、防災施設整備などがある。</p> <p>H 委員 起債できる額を上げると市の借金が増えることにならないか。</p> <p>高山室長 通常より有利な起債なので、この間の市の負担はかえって小さくなる。</p> <p>河合会長 この計画変更についていかがか。</p> <p>委員一同 異議無し。</p> <p>河合会長 全員一致で承認とする。</p>
<p>(5) 付議事項</p>	<p>(2) 南砺市山間過疎地域振興条例について</p> <p>(3) 南砺市まちづくり基本条例の運用について</p>

	<p>(4) 市民要望システムの運用について</p> <p>高山室長から資料に基づき順次説明</p> <p>河合会長 議題(2)、(3)、(4)についてご質問等は。</p> <p>I 委員 過疎条例制定は良いことである。平成5年以降、庄川の水質が悪化しているという。山の手入れが行き届かなくなったことが一因と考えられる。南砺の山間地は南砺市だけでなく、恩恵を受けている下流域全体で支えることを考えていかななくてはならない。</p> <p>田中市長 集落排水は整備されたが、山の保水力が低下しているのであろう。山間地の保全には下流域にも責任がある。子どもから大人まで、上流域(山)と下流域(里)の交流をもっと活発にすることも必要だ。山間過疎地を守ろうという市の姿勢が重要である。</p> <p>J 委員 山間地は、産業が無いせいで廃れてしまったのか。</p> <p>田中市長 地域の活性化のためには雇用が重要である。山間地の特色を生かし、山でないと出来ない仕事、逆にどこでもできるIT関連の仕事などが有望。また、住民の意識も変えていかななくてはならない。</p> <p>G 委員 山間地の人口が増加すれば山の管理が出来るようになるのか。</p> <p>田中市長 ライフスタイルの変化が大きく、難しいと思われる。</p> <p>G 委員 高齢化に応じた山間地管理の仕組みをつくるのが大切ではないか。</p> <p>田中市長 県税に県民1人当たり500円の「水と緑の森づくり税」があるが、それを利用する事業の担い手が不足している。過疎条例をつくり、ボランティアを育成する必要がある。</p> <p>J 委員 山の手入れはきつい仕事なのか？ 若い人でないとだめなのか？</p> <p>H 委員 今の若者より70代の方がよっぽど強い。</p> <p>D 委員 思い切って集落を再編し、特定の集落に集中投資をして仕事を作るなどの施策で人口の増加につなげるべきではないか。</p> <p>田中市長 集落再編はともかく、これまでの考え方を必要もあるだろう。まず各集落の人たちが暮らしやすく元気の出るような仕組みづくりをしたい。</p> <p>J 委員 ボランティア団体の他にもいろいろな団体がある。各団体が広く連携して活動ができるように力を入れ、実効性ある動きに結びつけてほしい。ただ、無報酬のボラン</p>
--	--

	<p>ティア活動だけでは市民の元気につながらないと思うが。</p> <p>田中市長 コミュニティビジネスを立ち上げ、そこに支援出来たら良いと思う。</p> <p>D 委員 山間過疎地だけの問題ではない。平野の農村部でも数年後にどうなるか心配な状況のところはたくさんある。</p> <p>田中市長 南砺市全体の問題として考えていく必要があると思う。</p> <p>その他</p> <p>河合会長 では、その他で話題にしたいことは。</p> <p>A 委員 ファブリカトヤマの跡地利用についてはどうなっているか。また、城端線利用活性化・観光客誘致のため、蒸気機関車を定期的に運行してはどうか。</p> <p>田中市長 ファブリカ社長と近く会う予定があるので利用計画を聞きたいと思う。城端線は駅舎の整備も含め、県あげて城端線・氷見線の活性化に取り組んでいるところであり、会議のうちに SL の運行について提案してみたい。</p> <p>C 委員 宅地造成地の排水について大雨でも一気に流れないよう市で規制できないか。</p> <p>浦田次長 都市計画で規制を強める方向にある。</p> <p>C 委員 県道安居福野線の川崎橋は幅員が狭く、通学路として大変危険である。スマート IC の開通も間近に迫り、早急に改修するよう県に働きかけてもらいたい。</p> <p>また、スマート IC の名称を決める時には地元の意見を聞いてほしい。</p> <p>田中市長 川崎橋改修についてはかねてから県に要望を行っているが、強く要望したい。スマート IC の名称については、地元の意見をよく聞いた上でネクスコ中日本に要望したい。</p>
(6) 閉会	<p>河合会長 他になければ、予定の時刻も過ぎたので、この辺で閉会としたい。</p>